

「多面的・多角的に考えること」

を重点とした道徳科の授業づくり

第1学年 道徳科学習指導案

1 主題名「つながる生命」(内容項目：D-19 生命の尊さ)

2 教材名「ゆうへ 生きていてくれてありがとう」

(出典「中学道徳 あすを生きる ①」(日本文教出版))

3 主題設定の理由

災害や事故、病気など想定外のできごとのために、いつ命の灯が消えるかは誰にもわからない。今、生きていることが当たり前ではないと気付くことで、「なぜ生命を大切にするのか」を深く考えさせたい。また、「一人で生きている」のではなく、家族をはじめ多くの人々の思いや願いによって「自分が生かされている」と気付くことで、人は誰でも「かけがえのない存在」であり、自他の存在を大切にすることが命を大切にすることだと理解させたい。

地震などの災害は、実際に遭わないと身近なものにはならないものであり、檜山に生活する生徒にとって北海道南西沖地震、胆振東部地震によるブラックアウトは北海道という自分たちが住んでいる地域で起きた災害だが、自分事として捉えることは難しく、また避難訓練以外で災害について考える経験もない可能性がある。

本校の多くの生徒は、自分の思いや考えを言葉に表したり、人に伝えたりすることを苦手と感じている。これは、人との交流の機会や経験が少なかったことや、コロナ禍により個を中心に生活してきたことの表れと思われる。

また、中学生のこの時期は、思春期に差し掛かり、精神面で不安定になったり、周りの声に耳を傾けられず、友達や家族に対し心ない言葉をかけてしまったりすること、自分に自信がもてないことがある。これらのことから、道徳授業における意見交流を通して、意思を言葉に表すこと、互いの意見を尊重すること、自信をもって伝え合うことができるようにしたい。

本教材は、阪神・淡路大震災によって息子を失った、筆者・たかいちづさんの手記で構成されている。息子を救うことができなかつた自分が生きていることの呵責の念に駆られ、たかいさんは生きる希望を失う。しかし、息子と双子で、助かったもう一人の娘も苦しみを抱えながら自分を励まし続けてくれていたことに気付き、これからの時間を大切にすることが、亡くなった息子も含めた、自分たち家族の人生を輝かせることになると気付く。生きていることは当たり前ではなく、多くの人々の支えによって「生かされている」存在だと気付かせることができる教材である。

4 本時のねらい

多くの人々の支えによって生きていると気付くことで、誰もがかけがえのない存在であると理解し、互いの存在や命を大切にしようとする道徳的心情を育てる。

5 本授業のポイント

- ① 自信をもって自分の考えを伝えられるようにするため、あらかじめ、考えをノートに書いてから互いの考えを伝え合うよう指導する。また、聞いたことをメモすることで相手と自分の考えの相違に気付けるようにする。
- ② 2学期に扱った生命の尊さに関する教材を想起させながら、本時の主題とねらいを関連付けさせる。

6 本時の展開

	学習活動 ○主な発問 ・予想される児童生徒の発言	◇留意点 ◆評価の観点 等
導入	<p>1 阪神・淡路大震災について知る。</p> <p>○今年1月1日、何をしていたましたか。思い出してみましょう。 全体 ・ゲームをしていた ・テレビを見ていた ・寝ていた</p> <p>○1月1日の夕方、何があったか覚えていますか。全体 ・地震</p> <p>○実は1月17日はあるできごとがあった日です。 なんだと思いますか。画像 映像 NHKサイト全体 </p>	<p>◇最近の出来事である「能登半島地震」時の自分のことを思い出すことで地震と自分を関連付けさせる。</p> <p>◇「1.17希望の灯り」の写真や追悼式の動画を提示し、夜明け前に大きな地震が起こり、辺りが真っ暗であったことを視覚的に捉えさせる。→参考としてNHKのサイトから「1.17タイムライン」を見せる。</p>
展開	<p>2 教材「ゆうへー生きていてくれてありがとう」を読み、考える。 音声</p> <p>○突然の地震に、しょうくん、ゆうちゃんの母であるたかいさんは、どんな気持ちになっただろう。ペア ・なにコレ! ・こわい! ・私、死んじゃう! ・子どもたちは大丈夫かしら?</p> <p>○たかいさんはどんな思いから、しょうくんのもとには行かず、ゆうちゃんと一緒に生きることを選択したのだろう。ペア ・しょうくんのもとへ行ってしまったら、生きているゆうちゃんや家族をもっと悲しませてしまう。 ・しょうくんのことは忘れられないしつらいけれど、目の前にいる家族を大切に生きていきたい。 ・しょうくんのところに行くとうちゃんが一人取り残されてしまう。</p> <p>○「生きていてくれてありがとう」という言葉には、たかいさんのどんな思いが込められているのだろう。ノート ペア ・ママは一人じゃなかったんだね。 ・ずっと励ましてくれていたんだね。 ・悲しむだけでなく、笑顔で生きていきたい。</p>	<p>◇音声は範読CDを用いる。</p> <p>補助発問 「気持ちに余裕があったのだろうか。」</p> <p>◇命が危険にさらされていることに気付かせる。</p> <p>補助発問 「しょうくんを失ったことで、たかいさんは『いのち』についてどう考えていたと気付いたのだろうか。」</p> <p>◇いのちの灯はいつ消えるかわからず、毎朝、目を覚ますことが当たり前ではないことに気付かせる。</p> <p>◇しょうくんを失ったたかいさんの深い悲しみに共感させ、簡単に立ち直ったわけではないことを押さえたうえで、たかいさんの今の思いを考えさせる。</p> <p>◇生きていくうえで娘のゆうちゃんをはじめ周りの人の存在が大切だと気付いたことで、たかいさんが前向きになれたことに共感させる。</p> <p>補助発問 「どんな気持ちから出てきた『あ</p>

	<p>・しょうくんの分まで生きてくれてありがとう</p> <p>○人とつながって生きていることを、あなたはどのように考えますか。個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人とのつながりがあるから、困っている人がいた時に助けたいという気持ちが出てくるのだと思う。 ・自分の力だけで生きているのではなく、他の人の力を借りて生きているのだと考えた。 	<p>「ありがとう』なのだろうか」</p> <p>補助発問</p> <p>「東日本大震災でも話題になった言葉が「絆」や人との「つながり」である。私たちは普段気付かないかもしれないが、人とのつながりをもって生きていると言えそうだが、そのことについてどう思うか」</p> <p>◆多くの人々の支えによって生きていると気づき、互いの存在や命の大切さについて考えている。(記述・発言)</p>
終末	<p>3 自己の生き方について考える。</p> <p>○これまでの生活の中で生命を支えられていると感じたことや、これから生きていく上で大切にしたい考えを書きましょう。</p> <p>ノート 個人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人だと難しいことでも、誰かと協力することで、何かをできるようになったりすることがあるので、そのような時に支えられていると思った。 ・知り合いではなくても気付いていないところで助けられていたりすることがあるので、人との「つながり」を意識して、知らない人でも助け合っていけるようにしたい。 <p>○「しあわせ運べるように」動画→</p> 	<p>◇今日の学習を振り返りながら、今生きている自分について考えることを道徳ノートにまとめさせる。</p> <p>◇「しあわせ運べるように」を聞きながら感想を記入させる。</p> <p>◆学んだ道徳的価値観を、これからの自分の生活に生かそうとしている。(記述)</p>

板書計画

<p style="text-align: center;">スクリーン 資料・範読音声 発問をスライド投影</p>	<p>ゆうへ 生きていてくれてありがとう 考えてみよう…どんな思い？</p>	<p>自分に+1…人とつながっている自分どう考える？</p>
---	--	--------------------------------

7 その他

- 後日、授業で扱った資料や生徒の道徳ノートに書かれた意見をまとめて配付する。
※本教材に関する、動画リンクなども併せて紹介する。

- 身近に感じる地震や災害（北海道南西沖地震や胆振東部地震）を導入例として取り扱うことも効果的である。
- 災害のことに触れる際は過去に生徒が災害被害を受けて傷ついたりしていないか、被災者が親類にいないか等、個々の生徒の状況に十分に配慮する。

(例)



【NHK for School 学ぼう BOSAI (たかい ちづきん)】